

第15回 建築人賞 発表

主催：公益社団法人大阪府建築士会

審査総評

審査の経過について、改めて簡単に振り返っておく。審査の方法は、基本的にこれまでを踏襲している。まずは『建築人』2022年1月号から12月号までのGallery欄に掲載された全39作品について、誌面を見て1次審査を行う。この段階で一般部門9作品、住宅部門6作品を選んだ。

選ばれた各作品の設計者から、追加で図面、写真、設計コンセプトなどをまとめた説明資料を提出してもらい、それをもとに2次審査を行った。これにより、一般部門6作品、住宅部門4作品に絞り込み、各部門の授賞作象とした。

選考に残った作品のうち、一般部門については現地を訪れて検討を深めた。住宅部門については、コロナ禍の影響を鑑みて、現地審査が可能かどうか、候補となった作品それぞれに打診した。その結果、まだ難しいとの回答が一件以上の候補作品から出されたので、昨年、一昨年に引き続き、すべての候補作について現地審査を断念し、書類のみによる選考とした。

以上のプロセスを経て、建築人賞、建築人賞新人賞、建築人賞奨励賞、建築人賞佳作の各賞を決定した。建築人賞新人賞は、今回から授与される賞で、設計者の年齢が40歳以下で、特に優れた作品

である場合に与えられるものである。

評価の基準としては、従来の建築のあり方に留まることなく新しいテーマに挑み、それを何らかの方法で解決するだけでなく、建築の意匠としても優れたまとめを行っているものを選ぶと心がけた。

一般建築部門で対象となったのは、メーカー営業所、学校、保育園、介護老人保健施設、公共文化施設など、幅広い年齢層を対象とした、多様なビルディングタイプの建築群であった。

まずは、エクステリア建材の新しい使い方を建物全体で示した「ユニソン大阪事業所」、敷地全体が自主的な学びの場となるよう設計された「大阪国際中学校高等学校」、厳しい条件ながら多様で豊かな空間を実現させた「介護老人保健施設はくほう」、街に開かれた図書館とホール複合施設「なでしこ芸術文化センター」の4作品に絞った。

次に、最優秀となる建築人賞一作品を選ばなくてはならない。最終段階での賞の絞り込みにはずいぶんと悩まれた。最終的に建築人賞として選んだのは、「ユニソン大阪事業所」である。アトリエ系の建築家が敬遠しがちな既製品の建材を全面的に採用し、にも関わらずこの設計者ならではの建築空間としてまとめ上げた力量に敬意を表しての結論である。

他の3作のうち、「大阪国際中学校高

等学校」の設計者が40歳以下であり、その作品は十分に基準を超えていると判断できるため、建築人賞新人賞をこれに贈ることにした。残りの2作を、建築人賞奨励賞とした。

住宅分野では、構造や設備を露出して将来の更新を簡単に行えるようにした「NUDE HOUSE prototype」が、構想力の高さだけでなく、シンプルながら魅了的な空間の実現も果たしていて、頭抜けていた。迷わず建築人賞を決定した。

次いで高い評価を与えたのは、隣接する2棟の住宅を同時に設計し、巧みなデザイン操作で両者の関係を表現した「並びの住宅」である。設計者が40歳以下だったため、これを建築人賞新人賞とした。

もう一作、「淡路島さくらの家」は、海に向かって開けた深い縁側空間が、診療に訪れる患者と共有されているという構成に魅力をおぼえ、建築人賞奨励賞とした。

建築人賞の審査を担当したのは、今回が3回目となる。昨年、一昨年と比べて、応募作全体のレベルが高いと感じた。選ぶ際には迷ったが、自信を持って賞を授与することができた。応募してくれた設計者、そして現地審査にご協力いただいた建物オーナーや管理者の皆さんに、感謝を伝えたい。

審査委員長 磯 達雄

1963年 埼玉県生まれ
1988年 名古屋大学工学部建築学科卒業
日経BP社入社『日経アーキテクチャ』編集部勤務(～1999年)
2001年～ 桑沢デザイン研究所非常勤講師
2002年 フリックススタジオ共同主宰(～2020)
2008年～ 武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科非常勤講師
2020年～ Office Bunga共同主宰



建築人賞新人賞記念盾



建築人賞記念盾
グラスアーティスト 佐久間 靖 作



建築人賞 ユニソン大阪事業所

設 計／竹原義二／無有建築工房

施 工／伊藤嘉材木店

建築位置／大阪府大阪市

敷地面積／2,649.24㎡

竣工年月／2021年7月

建築面積／369.06㎡

用 途／事務所

延床面積／441.13㎡

構造・規模／木造 平屋

写 真／絹巻 豊

木造 地上2階

建築人 2022年3月号掲載

【選評】

エクステリア建材メーカーの営業所、ショールーム、ストックヤードをまとめた拠点である。自社の多種多様な製品を、建物全体できうる限りの場所で用いている。にもかかわらず、建材見本のパッチワーク然とした印象を少しも抱かせないのは、材料の積み方、組み合わせ方、目地の取り方、仕上げ方などを場所ごとに検討し直し、想定を超えるアイデアで使ったからだ。ここを訪れたデザイナーは、創造性がおおいに触発されることだろう。



建築人賞 NUDE HOUSE prototype

設 計／松下建築設計一級建築士事務所

施 工／尾上工務店

建築位置／大阪府

敷地面積／147.94㎡

竣工年月／2015年7月

建築面積／50.13㎡

用 途／戸建て住宅

延床面積／88.42㎡

構造・規模／木造軸組工法

写 真／多田ユウコ

地上2階

建築人 2022年2月号掲載

【選評】

柱や梁などの構造部材のほか、電気、ガス、水道の配管、配線がすべてむき出しになっている裸の家である。断熱を外側で処理することで、内側から構造の補強を含めて、自由な改造が容易に行えるという。かつてのメタボリズムでは、設備や機能は変わるもの、構造は変わらないものと、ふたつに分けて建築をとらえ、将来の変化に対応しようとした。この住宅プロトタイプでは、構造すら変わりうるものととらえていて、よりラジカルである。



●目的

公益社団法人大阪府建築士会では会報誌「建築人」を毎月発行しており、2023年4月には第706号を数えました。本会の会員にとって重要な情報提供を行うとともに、建築作品発表の機会を設け、建築技術の普及や会員の相互研鑽に寄与することを目指しています。

「建築人賞」は「建築人」のGALLERY頁に掲載された全作品の中から特に機能性、社会性、デザイン性、先進性などにおいて優れたものを顕彰することで、建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的とし、「建築人」のプレゼンスをより高めていくことを意図して創設された賞です。

●新人賞創設について

「建築人賞」は、会誌「建築人」の中のGalleryに掲載された作品から選定する賞です。従って多くの会員の皆様にGalleryに応募いただくことが大切ですが、応募には掲載料が必要であることから、躊躇される会員もいると考えられました。一方、設計者のみならず建築主や施工者も表彰対象ということから、その価値を重んじる設計者の方は毎年のように応募されて、入賞を目指される傾向が見うけられました。その状況を見直すことも含めて「建築人賞新人賞」を創設することとしました。40歳以下を対象とし、若い建築士の方にGalleryに関心を持っていただき、新しい応募者を増やせるのではと考えました。

選定基準をどうするかなど、磯審査委員長にはご苦勞をお掛けしたと思いますが、無事に各賞に相当する作品が設定されたことに対して安堵した次第です。入賞作品は、いずれもコンセプトが明確で、作品性も高いものでした。「建築人賞」が今後も関西の建築士において優れた建築作品の発信の場となることを期待しています。

審査経過に関しては、磯審査委員長の審査講評を参照してください。

建築情報部門長 荻窪伸彦

建築人賞新人賞 大阪国際中学校高等学校

設 計／安井建築設計事務所

施 工／竹中工務店

建築位置／守口市松下町

竣工年月／2021 年 11 月

用 途／学校

構造・規模／(校舎棟) 地上 4 階・塔屋 1 階、RC 造
(特別教室棟) 地上 1 階、木造

敷地面積／18,130.55㎡

建築面積／4,631.84㎡

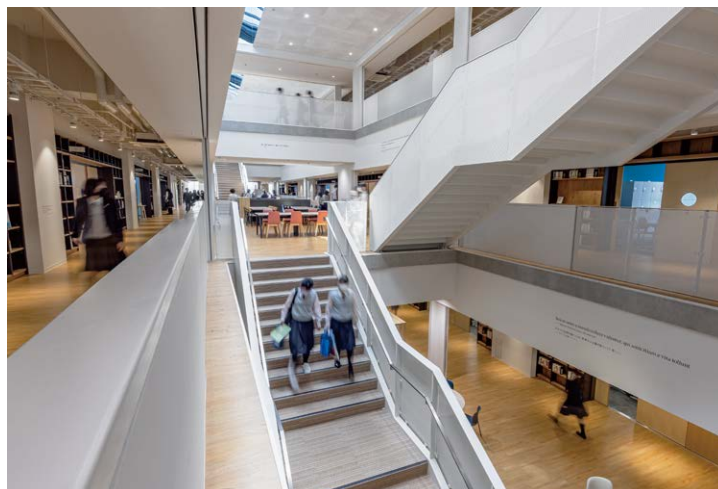
延床面積／9,716.29㎡

写 真／エスエス大阪

建築人 2022 年 11 月号掲載

【選評】

校舎棟は吹き抜けと一体化したコミュニケーションコモンズを囲んで教室が配置され、全体が図書館であるかのように。特別教室棟群は、教科ごとに特徴を持った庭に囲まれて散在し、渡り廊下からショーウィンドウを通じて学びのエッセンスに触れられる。そして壁や柱のあちこちには、各分野の偉人が残した言葉が記されている。百科事典をめくるようにして、様々な知識や文化と日常的に接することができる学校建築である。



建築人賞新人賞 並びの住宅

設 計／design SU 建築設計事務所

施 工／コムウト

建築位置／大阪府大阪市

竣工年月／2019 年 4 月

用 途／専用住宅

構造・規模／木造
地上 2 階・地下 1 階

敷地面積／168.00㎡

建築面積／69.60㎡

延床面積／119.59㎡

写 真／繁田 聡

建築人 2022 年 3 月号掲載

【選評】

親族関係にある二世帯の家を、隣り合わせの敷地で同時に設計して建設するというプロジェクト。独立性と関係性を両立させるといいう難しいテーマが、設計者には与えられた。解決策として、切妻屋根や接道面のモルタル壁を共通要素とする一方、他の壁と屋根の仕上げをたてハゼ葺きとひら葺きで入れ替えて使うという操作を行った。その結果、わずか 2 棟の並びながら、住宅地の一角に集落のようなコンテキストが生まれている。



実施要項及び経過

●対象作品 会報誌建築人 2022 年 1 月号～2022 年 12 月号「GALLERY」掲載作品 39 点

●審 査 第一次審査 (39 点から 15 点選出) 第二次審査 (10 点選出)

●表 彰 式 2023 年度定時総会・式典 席上 日時／2023 年 5 月 17 日(水) 会場／KKR ホテル大阪 3 階

●入賞作品

建 築 人 賞

ユニソン大阪事業所

2022 年 3 月号掲載

NUDE HOUSE prototype

2022 年 2 月号掲載

建築人賞新人賞

大阪国際中学校高等学校

2022 年 11 月号掲載

並びの住宅

2022 年 3 月号掲載

建築人賞奨励賞

介護老人保健施設はくほう
なでしこ芸術文化センター
淡路島さくらの家

2022 年 1 月号掲載

2022 年 10 月号掲載

2022 年 2 月号掲載

建築人賞佳作

Canadian Academy
愛光みのり保育園
MASSIVE

2022 年 1 月号掲載

2022 年 6 月号掲載

2022 年 7 月号掲載

建 築 人 賞

建築人賞新人賞

建築人賞奨励賞

設計者に賞状および記念盾を授与、建築主・施工者に賞状を授与

設計者に賞状および記念盾を授与、建築主・施工者に賞状を授与

建築主・設計者・施工者に賞状を授与 / 建築人賞佳作 建築主・設計者・施工者に賞状を授与

建築人賞佳作 Canadian Academy



設 計／竹中工務店
施 工／竹中工務店

建築位置／兵庫県神戸市
竣工年月／2021年9月
用 途／学校
構造・規模／SRC造（一部S・RC）
地上4階

敷地面積／32,909.54㎡
建築面積／8,441.74㎡
延床面積／15,469.44㎡
写 真／母倉知樹

建築人賞佳作 愛光みのり保育園

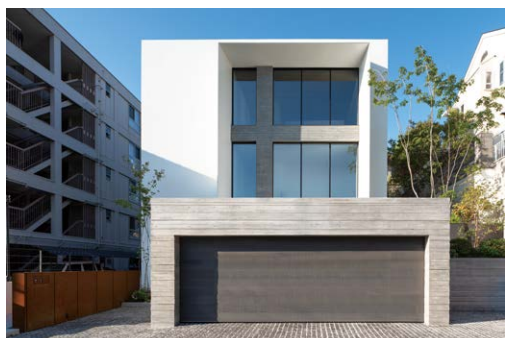


設 計／深江康之建築設計事務所
施 工／藤木工務店

建築位置／京都府木津川市
竣工年月／2014年4月
用 途／保育所
構造・規模／鉄骨造
平屋

敷地面積／3,005.01㎡
建築面積／1,231.58㎡
延床面積／1,139.58㎡
構造設計／満田衛資構造計画研究所
写 真／母倉知樹

建築人賞佳作 MASSIVE



設 計／マニエラ建築設計事務所
施 工／マイスターズ・ユニオン

建築位置／兵庫県西宮市
竣工年月／2022年2月
用 途／専用住宅
構造・規模／RC造
地上3階+PH

敷地面積／400.00㎡
建築面積／150.23㎡
延床面積／418.79㎡
写 真／松村芳治

建築人賞奨励賞 介護老人保健施設はくほう

設 計／森康郎建築設計事務所
施 工／柄谷工務店

建築位置／兵庫県尼崎市
竣工年月／2021年6月
用 途／介護老人保健施設
構造・規模／RC造
地上4階・地下1階

敷地面積／2,122.29㎡
建築面積／1,271.35㎡
延床面積／4,243.42㎡
写 真／古川泰造



【選評】複雑に文節された建物ボリュームが、中庭部を囲んで配置されている。住宅密集地に建つ限られた広さの施設にもかかわらず、内部を巡ると随所に設けられた視線の抜けにより、実に多様なシーンが展開する。外観で効いているのは、コンクリート打ち放しのバルコニー手摺に象嵌されたスモークガラスの小窓だ。これがファサードをリズムカルに整えると同時に、療養室のベッドから外の景色を見せることで、入居者の在宅復帰を促している。

建築人賞奨励賞 なでしこ芸術文化センター

設 計／久米設計
施 工／鹿島建設

建築位置／神戸市西区
竣工年月／2022年6月
用 途／劇場・図書館
構造・規模／RC造一部S造
地上4階

敷地面積／4,000㎡
建築面積／2,793.43㎡
延床面積／6,172.33㎡
写 真／川澄・小林研二
写真事務所



【選評】文化ホールと図書館の複合施設である。両者を結ぶ交流モールは、駅からの通り抜け動線にもなっており、人の流れが絶えない。その壁面には、アートウォールと名付けられた展示棚が設けられ、その隙間からは音楽の練習を行う光景も垣間見える。ホールは舞台背面を開放することにより、多目的スペースを介して、外の広場とつながる。空間を多重化するさまざまな仕掛けにより、街と一体化した文化活動の場が誕生している。

建築人賞奨励賞 淡路島さくらの家

設 計／井上久実設計室
施 工／淡路工舎

建築位置／兵庫県淡路市
竣工年月／2021年12月
用 途／1戸建て住宅
構造・規模／木造
地上2階

敷地面積／664.66㎡
建築面積／149.98㎡
延床面積／148.15㎡
写 真／富田英次



【選評】淡路島東海岸の高台に建てられた、スポーツ医学を専門とする医師の診療所兼住宅である。建物は、生活空間、診療所、浴室と、それぞれに大きさが異なる3つのボリュームからなり、深い縁側空間がそれらをつなぐ。縁側は南側に大きく開いて、大阪湾を望む絶景を楽しめるようにするとともに、涼しい風を内部に採り入れる。虫避けのメッシュを張った建具も設けられているため、この半屋外空間は一年を通して、快適に使われることだろう。